

22 加藤学園 教育課程特例校指定変更申請書 補足資料

5.その他 特別教育課程 補足資料 ①～⑧

① 高等学校学習指導要領「家庭基礎」と国際バカロレアカロレア・ミドルイヤーズ・プログラム（MYP）「デザイン」と「インディビデュアル・アンド・ソサエティー」（総合社会）との対応関係

1.対応関係の有無

「家庭基礎」は、「デザイン」と「インディビデュアル・アンド・ソサエティー」（総合社会）に振り分けて対応関係があるといえるが、内容及び内容の取扱いについて、対応すべき追加的事項・留意事項がある。

2.対応すべき追加的事項・留意事項

○内容(第 2 款)〔共通事項〕

家庭基礎については、MYP「デザイン」とMYP「インディビデュアル・アンド・ソサエティー」とに振り分けて扱うこととする。具体的な振り分けの範囲は下記の表による。

○内容の取扱い(第 2 款)

家庭基礎 MEXT	Design	Individual and Societies
2 内 容 A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1)生涯の生活設計 (2)青年期の自立と家族・家庭 (3)子供の生活と保育		A. 人の一生と家族・家庭及び福祉 Econ で個人・家庭・日常生活,工業化と開発指標を扱いこの中で A (1)～(5)について扱う。加えて、追加的に下記でも扱う。 (4) Econ:所得循環と景気

<p>(4)高齢期の生活と福祉</p> <p>(5)共生社会と福祉</p>		<p>循環</p> <p>(5) Econ:地域生産とフェアトレード、経済学における紛争と倫理的問題。</p> <p>総合的な人文科学 権利と社会的抗議</p>
<p>B 衣食住の生活の自立と設計</p> <p>(1)食生活と健康</p> <p>(2)衣生活と健康</p> <p>(3)住生活と住環境</p>	<p>B.</p> <p>(1) 健康的な食生活（各個人の事情に合わせた理想的なメニューを作成し、調理、試食する）</p> <p>(2)災害の際に着用できる防護服の作成などの取り組み</p>	<p>下記の単元で扱う</p> <p>(3) Geo: 自然災害の影響と管理、自然環境の持続可能な開発</p>
<p>C 持続可能な消費生活・環境</p> <p>(1)生活における経済の計画</p> <p>(2)消費行動と意思決定</p> <p>(3)持続可能なライフスタイルと環境</p>		<p>C 下記の単元で扱う</p> <p>(1) Econ: 各種経済主体</p> <p>(2) Econ: グローバル経済、グローバリゼーション：貿易、援助交換とフロー、各種経済主体</p> <p>(3) Econ: 貧困、不平等、対応</p>
<p>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p> <p>生活上の課題を設定し、解決に向けて生活を科学的に探究したり、創造したりする</p>		<p>D. 生活上の課題発見と解決として扱う。</p> <p>Hist: 個人・家庭・日常生活、社会・文化・芸術の発展</p> <p>MYPのサービス・アンド・アクション(SA)としても、授業外で生徒が個別に生活上やコミュニティーの課題と取り組む。</p>

※ Econ:経済 Geo:地理 Hist:歴史

② 高等学校学習指導要領「情報Ⅰ」と国際バカロレアカロレア・ミドルイヤーズ・プログラム (MYP) 「サイエンス」と「デザイン」との対応関係

1.対応関係の有無

「情報Ⅰ」と「サイエンス」と「デザイン」に振り分けて対応関係があるといえるが、内容及び内容の取扱いについて、対応すべき追加的事項・留意事項がある。

2.対応すべき追加的事項・留意事項

○内容(第 2 款)〔共通事項〕

情報Ⅰについては、MYP「サイエンス」とMYP「デザイン」に振り分けて扱うこととする。具体的な振り分けの範囲は下記の表による。また、「MYP 原則から実践へ」Appendix 5 Teaching with Technology で指定されているように、MYP の全科目で、情報スキルを活用して授業展開することが定められている。

留意事項としては、パイソンのプログラミングをデザインの授業で総合的に扱う必要がある。

○内容の取扱い(第 2 款)

情報Ⅰ	MYP Science	MYP Design
内容(第 2 款) (1) (イ)情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて扱う。 (ウ)情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について扱う。		MYP デザインの目的は、生徒が以下を行うことを奨励し、可能にすることである。情報へのアクセス、処理、伝達、解決策のモデル化、作成、問題解決の手段として、技術を効果的に使用、応用する。(1) (イ) (ウ)について明示的に扱う。
(2)コミュニケーションと情報デザイン 対応している	MYP サイエンスは、調査を計画、実行し、証拠を評価し、結論に達するスキルを身につける。	MYP デザインでは、様々な分野の知識、理解、スキルを身につけ、デザインサイクルを用いて問題の解

	<p>疑問を投げかけ、問題を解決し、説明を組み立て、議論を判断できる分析力、探究心、柔軟性を養う。</p> <p>効果的に協力し、コミュニケーションをとる必要性を認識する。</p>	<p>決策を設計、創造する。</p> <p>情報へのアクセス、処理、モデリング、ソリューションの作成、および問題解決の手段として、技術を効果的に使用し適用する。</p> <p>文化的、政治的、社会的、歴史的、環境的な文脈の中で、過去、現在、そして新たなデザインを理解する。</p>
<p>(3)コンピュータとプログラミング</p> <p>コンピュータで情報が処理される仕組みに着目し、プログラミングやシミュレーションによって問題を発見・解決する活動を扱う。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(イ)アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法を扱う。</p>	<p>(3)イ (ア) ATL スキルの一貫として扱う。</p> <p>pHET シミュレーションや表計算ソフトを使用してのシミュレーションを実施する。</p>	<p>MYP デザインでは、デザインの革新が、生活、国際社会、環境に与える影響について理解する。</p> <p>他者の視点を尊重し、問題解決のための代替案を検討する。</p> <p>誠実かつ正直に行動し、自らの行動に責任を持ち、効果的な仕事のやり方を身につける。</p> <p>ア (イ) プログラミング：BBC micro:bit を使用して、プログラムの設計をする。</p>
<p>(4)情報通信ネットワークとデータの活用</p> <p>(ア)情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解すること。</p>		<p>(4) (ア)、(イ)、(ウ) 明示的に扱う。</p> <p>イ (ア) 明示的に扱う</p>

<p>(イ)データを蓄積, 管理, 提供する方法, 情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解すること。</p> <p>(ウ)データを表現, 蓄積するための表し方と, データを収集, 整理, 分析する方法について理解し 技能を身に付けること。</p> <p>イ (ア)情報セキュリティを確保する方法について扱う。</p>		
---	--	--

General document: [MYP FPIP- Appendix 1: ATL skills framework and Appendix 5: Teaching with Technology](#)

<p>(ウ)生命の科学</p> <p>(エ)宇宙や地球の科学</p>		<p>(イ)物質の科学</p> <p>Chemistry: 周期表（金属と非金属、遷移金属、希ガス、傾向、周期、グループ）、物質（物質の状態と性質、粒子・運動論、拡散、原子構造〔同位体を含む〕、電子配置と価数(構造と結合、性質、化学式、化学反応と質量保存、釣り合い式、モル概念と化学計算、反応速度論〔速度と速度に影響を与える要因／衝突理論〕、平衡／可逆反応、反応におけるエネルギー変化、吸熱と発熱、燃料の燃焼)</p> <p>Integrated sciences 原子（原子構造と電子配置） 結合（言葉と化学反応と式、酸・塩基とpH)</p> <p>(ウ)生命の科学</p> <p>Biology 代謝（栄養、消化、生化学と酵素、移動と輸送、拡散、浸透圧、ガス交換、循環、蒸散と転流、ホメオスタシス、</p> <p>Integrated sciences: 生物間相互作用（食物連鎖・食物網）、代謝（消化・ガス交換）、システム（光合成・呼吸）</p> <p>(エ)宇宙や地球の科学</p> <p>Physics: 天体物理学（太陽系、惑星と衛星、ビッグバン理論）</p>
<p>(3)これからの科学と人間生活</p>		<p>MYP グローバルな文脈での指導（サステイナビリティ、グ</p>

科学技術と人間生活との関わり		ローバリゼーション、公平さと発展を取り上げて扱う)
	<p>(1)生物の特徴</p> <p>(ア) 生物に特徴</p> <p>ア 生物の共通性と多様性</p> <p>イ 生物とエネルギー</p> <p>(イ) 遺伝子とその働き</p> <p>ア 遺伝情報と DNA</p> <p>イ 遺伝情報とタンパク質の合成</p>	<p>Cells (組織、器官、システム、構造と機能、人の健康に影響を与える要因、生理学)。 予防接種)</p> <p>Organisms (生息地、生態系、相互依存性、生命体の統一性と多様性、エネルギー移動とサイクル[栄養、炭素、窒素を含む]、分類)</p> <p>Evolution(ライフサイクル、自然淘汰、細胞分裂、有糸分裂、減数分裂、生殖、生物多様性) 遺伝と変異、DNA と遺伝学)</p>
	<p>(2)ヒトの体の調節</p> <p>(ア)神経系と内分泌系による調節</p> <p>ア 情報の伝達</p> <p>イ 体内環境の維持の仕組み</p> <p>(イ)免疫</p> <p>ア 免疫の働き</p>	<p>Metabolism (栄養、消化、生化学と酵素、移動と輸送、拡散。浸透圧、ガス交換、循環、蒸散、転流、ホメオスタシス)</p> <p>Interactions with environment (トロピズム、感覚、神経系、受容体、ホルモン)</p> <p>• Interactions between organisms (病原体/寄生虫、捕食者/被食者、食物連鎖と食物網。競争、種分化、絶滅)</p>
	<p>(3)生物の多様性と生態系</p> <p>(ア)植生と遷移</p> <p>(イ)生態系とその保全</p>	<p>Human interactions with environments (人為的影響、生息地の変化・破壊、公害・環境汚染)。 保全、乱獲、悪影響の緩和)</p>

参照：

国際バカロレア・ミドルイヤーズ・プログラム (MYP) 「サイエンス」の教科ガイド

MYP

Sciences

Guide

p50

<https://drive.google.com/file/d/1xjCggx2BWdBU78XPwt4zkyQ6CP8BfcQN/view?usp=sharing>

④ 学習指導要領「外国語」（英語）と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム
「ランゲージ A： 言語と文学 （英語） HL」の対応関係

学習指導要領「外国語」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ランゲージ B との対応関係」に基づいて、「ランゲージ A： 言語と文学 （英語） HL」の対応関係を確認する。学習指導要領「外国語」と「ランゲージ B との対応関係」として、追加すべき事項・留意事項は「ランゲージ A： 言語と文学 （英語） HL」にも適用される。また、その際留意すべき点は、「ランゲージ A： 言語と文学 （英語） HL」は、ランゲージ B（英語）と比較して、より深く英語の特性や英語文化について学び、文学理論、社会言語学、メディア研究、批判的言説（クリティカルディスコース）分析などを含みます。”

「言語 A： 言語と文学」教科ガイド

https://resources.ibo.org/dp/subject/Language-A-language-and-literature-2021/works/dp_11162-54452?lang=en&alang=ja&root=1.6.2.2.9

学習指導要領「外国語」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ランゲージ A： 言語と文学 （英語） HL」の対応関係表

文部科学省	IB 対応	IB
統合的な言語活動を通して「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域（以下「五つの領域」という。）を総合的に扱うことを一層重視する科目と、話すことと	総合的には、対応関係があると考えられる。追加的に対応すべき点は、ランゲージ B の追加点に準拠する。	生徒の言語的背景はそれぞれ異なりますが、受容スキル (receptive skill)、産出スキル (productive skill)、およびやりとりのスキル (interactive skill) が高いことが求められ、コースを履修することでそれらの能力が統合されることが期待されます。具体的には、言語運用能力、流暢さ、言語使用範囲の広さ、そして特にテキスト分析に適切な語彙を習得することが期待されます。また、文学および非文学テキストの探究を通して、さまざまな概念に対する理解を深め、理解したことを解釈、分析、および評価し、それを明確に順序だて、まとめた形で表現します。(IB 言語 A

<p>書くことによる発信能力の育成を強化する科目をそれぞれ新設し、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための言語活動を充実させることとした。 p6-7</p>		<p>ランゲージと文学 教科ガイド) https://resources.ibo.org/dp/subject/Language-A-language-and-literature-2021/works/dp_11162-54452?lang=en&alang=ja&root=1.6.2.2.9</p>
---	--	---

以下ランゲージ B の対応すべき追加的事項・留意点に準拠した内容を提示します。

「外国語」の「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」と「ランゲージ A 英語 HL」について内容及び内容の取扱いについて、対応すべき追加的事項・留意事項がある。

2.対応すべき追加的事項・留意事項

○内容(第 2 款第 1～6 の 2)

〔共通事項〕

- ・英語の特徴やきまりに関する事項について取り扱うこと。【〔知識及び技能〕
- (1) 言語の働きに関する事項について、学習指導要領の関連規定に留意すること。【〔思考力、判断力、表現力等〕(3)2】

○各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い(第 3 款)

〔共通事項〕 ・実際に英語を活用して自分自身の考えを伝えあうなどの言語活動を行う際は、既習の語句や文構造、文法事項などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。【1(5)】

・言語能力の向上を図る観点から、言語活動などにおいて国語科との連携を図り、指導の効果を高めるとともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気づかせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるよう工夫をすること。【1(7)】

・指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。【1(10)】

・単に英語を日本語に、又は日本語を英語に置き換えるような指導とならないよう、英語の特徴や きまりに関する事項に示す言語材料については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で 繰り返し触れることを通して指導すること。また、生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。【2(1)】

・音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。【2(2)】

・文法事項の指導に当たっては、文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、過度に文法的な正しさのみを強調したり、用語や用法の区別などの指導が中心となったりしないよう配慮し、使用する場面や伝えようとする内容と関連付けて整理するなど、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように、効果的な指導を工夫すること。【2(3)】

・話すことや書くことの指導に当たっては、目的や場面、状況などに応じたやり取りや発表、文章などの具体例を示した上で、生徒がそれらを参考にしながら自分で表現できるように留意すること。【2(5)】

・中学校で身に付けた使い方を基礎として、辞書を効果的に活用できるようにすること。【2(6)】

⑤ 学習指導要領「化学」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「化学」SLの対応関係

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「化学」SLに追加的に対応すべき事項
 本校では化学SLを実施しているので、対応するHL範囲を含めて対応することとする。

文部科学省 学習指導要領	IB 追加的対応
(1)物質の状態と平衡のうち以下の事項。 ・溶解の仕組みを理解すること。また、溶解度を溶解平衡と関連付けて理解すること。【2(1)ア(イ)ア】 ・上記については、固体及び気体の溶解度を扱うこと。【3(2)ア】	HL Topic 15、Topic 4 を含めて総合的に扱う
(2)物質の変化と平衡のうち以下の事項。 ・水のイオン積、pH 及び弱酸や弱塩基の電離平衡について理解すること。【2(2)ア(イ)ウ】 ・上記については、塩の加水分解や緩衝液にも触れること。【3(1)イ】	HL Topic 18.2, Topic 18.3 を含めて扱う
(3)無機物質の性質のうち以下の事項。 ・遷移元素の単体と化合物の性質を理解すること。【2(3)ア(ア)イ】 ・上記については、クロム、マンガン、鉄、銅、亜鉛及び銀を扱うこと。【3(1)ウ】	HL Topic 13 を含めて扱い、その中にクロム、マンガン、鉄、銅、亜鉛及び銀も扱う
(4)有機化合物の性質のうち以下の事項。 ・脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解すること。【2(4)ア(ア)ア】 ・上記については、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸及びエステルを取り上げ、それらの性質は炭素骨格及び官能基により特徴付けられることを扱うこと。また、鏡像異性体にも触れること。【3(1)エ】	HL Topic 10 と 20.3 も含めて扱う

⑥ 学習指導要領「生物」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「生物」SLの対応関係

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「生物」SLに追加的に対応すべき事項
 本校では生物SLを実施しているため、対応するHL範囲を含めて対応することとする。

文部科学省 学習指導要領	IB 追加的対応
<p>(2)生命現象と物質のうち以下の事項。</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼吸に関する資料に基づいて、呼吸をエネルギーの流れと関連付けて理解すること。【2(2)ア(イ)ア】 上記については、ATP合成の仕組みを扱うこと。その際、解糖系、クエン酸回路及び電子伝達系に触れること。 また、発酵にも触れること。【3(2)ウ】 光合成に関する資料に基づいて、光合成をエネルギーの流れと関連付けて理解すること。【2(2)ア(イ)イ】で扱う 上記については、ATP合成の仕組みを扱うこと。その際、光化学系、電子伝達系及びカルビン回路に触れること。【3(2)ウ】 	<p>Topic 2.8 SL 細胞呼吸で扱う Topic 2.9 SL 光合成で扱う</p> <p>- Topic B1 SL で発酵についても扱う topic 2.8 の細胞呼吸で扱う</p> <p>Topic 8.2 HL 細胞呼吸の内容で電子伝達系やATP合成も含めて扱う Topic 8.3 HL 光合成の内容でカルビン回路も含めて扱う</p>
<p>(3)遺伝情報の発現と発生のうち以下の事項。</p> <ul style="list-style-type: none"> DNAの複製 DNAに関する資料に基づいて、DNAの複製の仕組みを理解すること。 また、遺伝子発現に関する資料に基づいて、遺伝子の発現の仕組みを理解すること。【2(3)ア(ア)ア】 上記については、「DNAの複製の仕組み」については、DNAポリメラーゼDNAに触れること。 	<p>Topic 2.7 SL DNA複製, 転写, 翻訳に加えて、下記のHLのTopic7の内容も含んで扱う。</p> <p>Topic 7.1 HL DNA構造と複製 Topic 7.2 HL 転写と遺伝子の発現 Topic 7.3 HL 翻訳も含めて扱う</p>

「遺伝子の発現の仕組み」については、転写及び翻訳を扱い、RNA ポリメラーゼとリボソーム RNA に触れること。

また、スプライシングにも触れること。【3(2)エ】

⑦ 学習指導要領「物理」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「物理」SLの対応関係

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「物理」SLに追加的に対応すべき事項

物理SLではTopic 1～8、物理HLではTopic 9～12を扱っている。

本校では物理SLを実施しているので、対応するHL範囲を含めて対応することとする。

文部科学省 学習指導要領	IB 追加的対応
内容（第2款 第2の2） 発電、送電及び電気の利用について、基本的な仕組みを理解する。	Topic 8 でHLの Topic 11.2 分も追加して扱う
内容（第2款 第3の2、3） （1）様々な運動のうち以下の事項 -（ウ）「単振動」については、単振動する物体の変位、速度、加速度及び復元力を扱うこと	内容（第2款 第3の2、3） （1） -（ウ）「単振動」 Topic 4.1 の中で明示的に扱う
内容（第2款 第3の2、3） -（エ）万有引力については、万有引力による位置エネルギーも扱うこと	内容（第2款 第3の2、3） -（エ）万有引力による位置エネルギー Topic 6.2 でHLの Topic 10.2 も追加して扱う
内容（第2款 第3の2、3） （2）波のうち以下の事項 音のドップラー効果について理解すること	内容（第2款 第3の2、3） （2）波のうち以下の事項 音のドップラー効果について理解すること Topic 4 でHLの Topic 9.5 分も追加して扱う
内容（第2款 第3の2、3） （3）電気と磁気のうち以下の事項 コンデンサーの性質を理解するとともに、電気容量を電界や電位差と関連づけて理解すること	内容（第2款 第3の2、3） （3）電気と磁気のうち以下の事項 コンデンサーの性質を理解するとともに、電気容量を電界や電位差と関連づけて理解すること Topic 5 でHLの Topic 11.3 も追加して扱う
内容（第2款 第3の2、3） （4）原子のうち以下の事項 -（ア）電子については、電子に関する歴史的な実験にも触れること。	内容（第2款 第3の2、3） （4）原子のうち以下の事項 -（ア）電子については、電子に関する歴史的

	<p>な実験にも触れること。 Topic 7.3 で敷衍して扱う</p>
<p>内容（第2款 第3の2、3） （4）原子 のうち以下の事項 - 電子や光の粒子性と波動性について理解すること</p>	<p>内容（第2款 第3の2、3） （4）原子 のうち以下の事項 - 電子や光の粒子性と波動性について理解すること Topic 7 で HL Topic 12 も追加して扱う</p>
<p>内容（第2款 第3の2、3） （4）原子 のうち以下の事項 - 上記については、光電効果、電子線回析などを扱い、X線にも触れること。</p>	<p>内容（第2款 第3の2、3） （4）原子 のうち以下の事項 - 上記については、光電効果、電子線回析などを扱い、X線にも触れること。Topic 7 で HL の Topic 12.1 も扱う</p>

⑧ 学習指導要領「総合的な探究の時間」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム CAS (クリエイティビティ・アクティビティ・サービス) と 国際バカロレア・ミドルイヤーズ・プログラム SA (サービス・アズ・アクション) との対応

本校では、「総合的な探究の時間」と「セオリー・オブ・ナレッジ」(TOK) および、CAS (クリエイティビティ・アクティビティ・サービス) とサービス・アズ・アクション (SA) に対応関係があるとして読み替えをしている。

文部科学省が提示する対応関係によると、「総合的な探究の時間」と「セオリー・オブ・ナレッジ」(TOK) には対応関係があり、CAS (クリエイティビティ・アクティビティ・サービス) などの、体験的学習との関連を踏まえて取り組むように留意することが求められている。

そこで、本校では TOK を補完するという観点から、高校2、3年での体験的学習として IB が設定している科目外の活動 CAS を実施し、高校1年ではサービス・アンド・アクション (SA) としてを実施している。

文部科学省	IB DP CAS	IB MYP SA
内容 学習指導要領の関連規定 第3の2(10) 職業や自己の進路に関して学習するに際して、将来のあり方や生き方を考える	CAS 活動を通して、地域や世界のコミュニティーの一員として他者や環境に対して責任を持つという姿勢を獲得する。	SA 活動を通して、地域や世界のコミュニティーの一員として他者や環境に対して責任を持つという姿勢を獲得する。
学習指導要領の関連規定 第3の2(6),2(7) 体験学習を踏まえつつ探究に取り組む	幅広く授業外の CAS 活動に、独自の目標を設定し、効果的な方法を模索し、取り組み、その後振り返り次の行動を見極める。	年齢に応じて授業外の SA 活動に、独自の目標を設定し、効果的な方法を模索し、取り組み、その後振り返り次の行動を見極める。

「創造性・活動・奉仕」(CAS) 指導の手引き 参照

「サービス・アズ・アクション」(SA) 指導の手引き 参照